

成果の説明書

(氏名) 中村 彰良	(学部) 経済学部
1 重要事項 研究 前年度から引き続き東芝の問題について、新聞報道や雑誌記事などから事態の推移を把握するように努めた。東芝の問題でたびたび指摘される組織風土の問題について、どういった要因が組織風土に影響を与えることになるのか、検討を続けている。 これとは別に、昨年度分担執筆した全国経理教育協会編『全経簿記上級原価計算・工業簿記テキスト』が、校正などを経て2017年9月に中央経済社から発行された。 また初版発行から10年が経過した『管理会計論』創成社について、経営分析の部分については、重要な指標を付け加えたり、関連原価分析の部分については、設例の条件を見直したり、その他にも、用語の見直しを行ったりという改訂を行い、『管理会計論〔第2版〕』として2018年2月に発行された。 教育 簿記論については、中間試験を例年通り実施した。また例年通りに、質問への対応を行った。 管理会計論については、研究の部分でも触れたが、テキストの改定を行った。また例年通りに、質問への対応を行った。 ゼミについては、例年通り夏休みの終わりに3年のゼミ合宿を行った。合宿では、チームに分かれてビジネスゲームをおこなった。 また4年生の提出したゼミ論文に目を通した。	
2 その他の事項 高崎経済大学経済学会監事として、監査を行った。	
3 次年度以降の計画・抱負 研究面では、不正会計の問題について、行動経済学などの面から参考になることがないか検討したい。 教育面では、簿記の検定試験で出題範囲から外れた部分に関心を持つ学生がいるようなので、そういったことも考慮したい。	